

地域系学科における学びに関するアンケート
－ 調査結果報告書 －

2016年7月

河合塾

はじめに

河合塾では高校の進路指導担当向け情報誌『ガイドライン』（年8本、各号4万部発行）を作成しております。本誌では大学入試に関する情報だけでなく、大学における教育・研究、高校での学習などに関する情報を掲載し、全国の高校で進路指導に活用されています。シリーズ企画の「注目の学部・学科」では、毎号1つの学部・学科について紹介しており、2016年度7・8月号では「地域系」を掲載しました。

地域系学部・学科は2016年に10大学で開設されるなど、近年設置大学が増え、社会の注目を集めています。しかし、地域系学部・学科で育成する人材像や、それを実現するための教育の取り組み等については、十分に知らない高校生や高校の先生も多いようです。

そこで河合塾では、ガイドライン7・8月号の企画に合わせて、「地域」またはそれに類する名称をもつ学科（76学科）を対象にアンケート調査を実施致しました。育成する人材像や力を入れている教育の取り組み、重視している学問分野とともに、多くの地域系学部・学科が必修科目としている「地域をフィールドとした実習」について、具体的な内容を聞きました。調査結果について、ここに報告させていただきます。

なお、高校での進路指導の際にご活用いただけるよう、『ガイドライン』は河合塾の大学入試情報サイト Kei-Net (URL <http://www.keinet.ne.jp/>) にも掲載しており、調査報告書についてもあわせて公表させていただいております。そのため、結果報告書では、大学の回答すべてを一覧にするのではなく、高校生や高校の先生がわかりやすいよう、解説とともに各大学の回答の中から一部を紹介する形式をとっています。

最後になりましたが、調査には48件（学部としての回答3件、学科としての回答45件）の回答をいただきました。ご多忙の中、ご協力いただいた学部・学科の関係者の皆様には、厚く御礼申し上げます。

学校法人 河合塾 教育イノベーション本部
ガイドライン編集部

アンケート概要

- ◆ 名称
「地域系学科における学びに関するアンケート」
- ◆ 調査時期
2016年2月～4月
- ◆ 調査対象
学部・学科名に「地域」またはそれに類する名称を持つ、4年制大学の学科（76学科）
- ◆ 調査方法
アンケート用紙による配付・回収
- ◆ 回答数
48件（回答率63%）
※学部としての回答3件、学科としての回答45件。
回答率は、送付先学科数に対する回答学科数の割合。

目次

I.	育成する人材像と進路	2
	(1-1) 育成する人材像と学生に身につけさせたい資質・能力	
	(1-2) 卒業後の主な進路	
II.	学士課程教育の特徴	5
	(2-1) 授与している学位の名称	
	(2-2) 重視している学問分野	
	(2-3) 力を入れている教育の取り組み	
III.	地域をフィールドとした実習	10
	(3-1) 実習が必修か	
	(3-2) 実習科目の単位数・地域で活動する時間の割合	
	(3-3) 年次ごとの実習の狙い	
	(3-4) 実習先の主な地域	
	(3-5) 実習の効果を高める工夫	
	(3-6) 特に力を入れている実習科目	
IV.	参考資料	16
	(4) 地域系学部・学科に対する高校教員の声	

<回答学部・学科一覧>

No.	大学名	学部・学科名	No.	大学名	学部・学科名
1	北海道教育大学函館校	国際地域学科	25	高崎経済大学	地域政策学部地域づくり学科
2	弘前大学	農学生命科学部地域環境工学科	26	高崎経済大学	地域政策学部観光政策学科
3	秋田大学	教育文化学部地域文化学科	27	滋賀県立大学	人間文化学部地域文化学科
4	宇都宮大学	地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科	28	北九州市立大学	地域創生学群
5	宇都宮大学	地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科	29	長崎県立大学	地域創造学部公共政策学科
6	福井大学	国際地域学部国際地域学科	30	長崎県立大学	地域創造学部実践経済学科
7	山梨大学	生命環境学部地域食物科学科	31	札幌大学	地域共創学群
8	静岡大学	地域創造学環	32	北海学園大学	経済学部地域経済学科
9	岐阜大学	地域科学部	33	札幌大谷大学	社会学部地域社会学科
10	和歌山大学	観光学部	34	東北学院大学	教養学部地域構想学科
11	鳥取大学	地域学部	35	常磐大学	コミュニティ振興学部地域政策学科
12	鳥取大学	地域学部地域教育学科	36	大正大学	地域創生学部地域創生学科
13	鳥取大学	地域学部地域文化学科	37	東海大学 札幌キャンパス	国際文化学部地域創造学科
14	鳥取大学	地域学部地域政策学科	38	東京農業大学	生物産業学部地域産業経営学科
15	島根大学	生物資源科学部地域環境科学科	39	東洋大学	国際地域学部国際観光学科
16	香川大学	経済学部地域社会システム学科	40	東洋大学	国際地域学部国際地域学科
17	愛媛大学	社会共創学部産業マネジメント学科	41	明治大学	政治経済学部地域行政学科
18	愛媛大学	社会共創学部産業イノベーション学科	42	白梅学園大学	子ども学部家族・地域支援学科
19	愛媛大学	社会共創学部環境デザイン学科	43	愛知大学	地域政策学部
20	愛媛大学	社会共創学部地域資源マネジメント学科	44	愛知東邦大学	経営学部地域ビジネス学科
21	高知大学	地域協働学部地域協働学科	45	龍谷大学	社会学部コミュニティマネジメント学科
22	大分大学	経済学部地域システム学科	46	大阪経済大学	経済学部地域政策学科
23	宮崎大学	地域資源創成学部地域資源創成学科	47	追手門学院大学	地域創造学部地域創造学科
24	高崎経済大学	地域政策学部地域政策学科	48	沖縄国際大学	経済学部地域環境政策学科

I. 育成する人材像と進路

(1-1) 育成する人材像と学生に身につけさせたい資質・能力

地域系学科では、どのような人材の育成をめざしているのか、自由記述で回答してもらった。学科によって表現は異なるが、「地域のさまざまな課題を自ら発見し、その解決に積極的に取り組むことができる、実践力のある地域のキーパーソンとなれる人材」（鳥取大学地域学部地域政策学科）のように、多くの学科が「地域の問題を解決できる人材」を育成する人材像として挙げた。

そのためにはどのような資質・能力が求められるのか。各学科に5つまで挙げてもらったところ、次のようなものが挙がった。

まずは、**問題解決のプロセスに関連する能力**である。地域で起きる問題は、人口減少、少子高齢化、産業の衰退など、さまざまな要因が複雑に絡み合って発生する。その中で何が問題となっているのかを見いだす力である**問題発見力**、発見した問題の解決に向けて計画を立てる**企画立案力**、そして知識や技能を活用した**問題解決力・実践力**などを多くの大学が挙げた。これらはどの系統の学部・学科でも求められる力だが、地域系学科の場合は、「地域や観光の課題を発見・探求し、解決策を考え、実践する能力」（香川大学経済学部地域社会システム学科）のように、共通して地域を志向している点が特徴である。そのため、問題発見の前段階として**地域理解力**なども多くの学科が挙げた。

また、問題解決は単独で行うものではなく、地域の多様な人々を巻き込んでいくことが必要になる。「地域のさまざまな主体や多様な分野の専門家との間で、事実説明、意思表示、合意形成を適切に行う」（宇都宮大学地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科）のような、**コミュニケーション能力**や**協働力**、「チームや組織のリーダーとなって、目標に向けて合意形成ができる能力」（大正大学地域創生学部地域創生学科）といった**リーダーシップ**も重視されている。

さらに、問題の発見・解決のためには、経済学、政治学、歴史学などの幅広い分野の**基礎的な知識**や、**専門的な知識・技能**、それらを横断的に使いこなすための**総合的・分野横断的な視野**などが必要となる。また、**グローバルな視野**や**外国語の運用能力**を挙げる学科も、「国際地域学科」などを中心に見られた。

専門的スキルとしては、「フィールドワークや社会調査から地域社会の課題を実証的に発見し、その解決に向けて実際に自ら取り組みを開始する意思とそのための能力」（札幌大谷大学社会学部地域社会学科）のように、**フィールドワーク**や**社会調査を実施・分析する力**を、多くの学科が重視している。専門的知識については社会科学系の分野を中心に、さまざまなものが挙げられた。

<図表1> 身につけさせたい資質・能力の例（抜粋）

大学名	学部・学科名	身につけさせたい資質・能力(5つまで)
弘前大学	農学生命科学部地域環境工学科	総合的技術力 専門工学知識 国際性の育成 技術者の社会的責任
宇都宮大学	地域デザイン科学部 社会基盤デザイン学科	専門基礎力 専門応用力 課題解決力 グローバル展開力 コミュニケーション能力
山梨大学	生命環境学部地域食物科学科	食品製造に関する能力 食品栄養に関する能力 園芸に関する能力 ブドウの栽培・病理・生理に関する能力 ワインの醸造・評価に関する能力
岐阜大学	地域科学部	創造的かつ論理的な思考力 課題発見と政策立案能力 状況把握力 自然環境への科学的アプローチ コミュニケーションと協働の能力
和歌山大学	観光学部	観光関連産業でリーダーになる資質 観光に精通しつつ地域再生に貢献できる資質 観光を求める心、観光から生まれる出会い／観光を文化で読み解く資質
鳥取大学	地域学部	専門的知識・技能と豊かな教養 論理的思考力・批判的判断力・創造的表現力 生涯学習力 社会的実践への参画力
滋賀県立大学	人間文化学部地域文化学科	分析力 思考力 創造力 コミュニケーション力 リーダーシップ
北海学園大学	経済学部地域経済学科	豊かな人間性・幅広い教養 外国語能力 経済・地域経済の理論・専門的知識
東北学院大学	教養学部地域構想学科	「地域社会の中でよく生きること」 コミュニケーションスキル 3領域の専門的理解 グローバルで複眼的な視点 課題解決能力
大正大学	地域創生学部地域創生学科	コミュニケーション クリティカルシンキング ファシリテーション マネジメント 情報発信
東京農業大学	生物産業学部地域産業経営学科	マーケット分析能力 コーディネート能力 事業構想能力 問題解決能力、プレゼンテーション能力
龍谷大学	社会学部 コミュニティマネジメント学科	情報発信能力 ネットワーク構築能力 マネジメント能力
大阪経済大学	経済学部地域政策学科	地域の課題を解決できる、知識、実践力、政策力 環境など社会が抱える諸問題を理解し、解決する能力 グローバルな視点から地域をとらえる能力 地域社会に密着した政策を立案する能力 経済学の基礎を身につける

(1-2) 卒業後の主な進路

卒業生の主な進路先を自由記述で聞いた。まだ卒業生がいない学科については、想定している進路を回答していただいた。有効回答数は46件である。

各学科からの回答を日本標準産業分類（総務省：平成26年4月1日施行）に従って集計したところ、最も多く挙げたのは「公務」（国家公務員、地方公務員、自治体職員、行政などの回答も含む）で、43件（93%）が主な進路として挙げた。次いで、地域経済を支える「金融業・保険業」（34件：74%）、幅広い分野の「サービス業」（32件：70%）、「製造業」「卸売業・小売業」（ともに21件：46%）などが多かった。日本標準産業分類にはない分類だが、「観光業」を挙げる学科が19件（41%）と多い点も特徴的である。

さらに、地元での就職を念頭に置いた回答が目立った。公務員などを挙げる学科が多いことに加え、農林漁業や、そこから得られる生産物を加工する食品企業など、地場産業を意識した回答も複数見られた。また、地域の資源を組み合わせる新たな事業を生み出す起業家の育成をめざす学科も複数あった。

<図表2> 卒業後の進路の特徴（抜粋）

大学名	学部・学科名	卒業後の進路
* 宇都宮大学	地域デザイン科学部 コミュニティデザイン学科	行政職の国家公務員、行政職の地方公務員、特別職国家公務員（国会職員、裁判所職員、国税専門官など）、一般企業（金融・保険業、公益企業、観光・旅行業、食品開発加工業等）、農産物生産加工後継者、コンサルタント業、シンクタンク、ベンチャー企業、社会福祉関連法人、コミュニティ施設・社会教育施設等
鳥取大学	地域学部地域政策学科	公務員、民間企業（地元志向の金融機関、マスコミ、サービス業など）、非営利団体など。公務員（県、市町村、警察官など）を希望して入学する学生が多いが、次第にさまざまな職業に興味を持ち、民間企業への就職も多い。学科として、特定の業種や公務員などを想定した指導はしていないが、学生の公務員志向が強いことは認識している。
* 高知大学	地域協働学部 地域協働学科	現時点で卒業生は存在しませんが、学生の進路については人材像ごとに想定しています。「6次産業化人」については6次産業化による起業・家業の継承ないしベンチャー企業への就職、「産業の地域協働リーダー」については食品加工・流通・卸売・企画デザイン・コンサルティング等の企業や金融機関、「行政の地域協働リーダー」については公務員、独立行政法人、農林商工団体、「生活・文化の地域協働リーダー」については社会福祉・観光業・マスメディアや非営利組織を、それぞれ主な進路として想定しています。
* 宮崎大学	地域資源創成学部 地域資源創成学科	企業マネジメントコース：起業、製造業、食品加工業、醸造業、金融関係、事業承継、地場企業、メーカー、商社、情報通信事業者 等 地域産業創出コース：6次産業化事業者、観光関連企業、フードビジネス関連企業、農業生産法人、農業団体、商社、流通業、旅行業、商工団体 等 地域創造コース：行政（国・県・市町村）、経済団体、商工会議所、商工会、交通事業者、都市計画関係コンサルタント、NPO（まちづくり系）、開発業者 等
北九州市立大学	地域創生学群	業種が多様であることが特徴です。公務員、金融業、製造業、サービス業など多岐にわたります。 また、就職活動の行い方が他学部生とかなり異なるのが特徴です。元来、自分の地元を活性化したい、その手法を本学で学びたいという意向を持って入学してくるため、自分の出身地に戻って就職する学生が多くなります。それらの学生は、「企業で働く」というイメージにとどまらず、「働きながらどんな社会人生活を送るか」を考えているので、それほど業種にはこだわりません。自分らしい仕事ができ、社会との接点を確保できるような生き方ができるのであれば良いと考えて、出身地でのそれなりの規模の企業を受験する傾向が強くなっています。就職環境が良いこともあり、そのような企業を、数社受験して合格しますので、就職活動サイトを使って多くの企業にエントリーしたり、といった就職活動を行いません。ほとんど就職活動をしないというのが特徴かもしれません。
明治大学	政治経済学部 地域行政学科	都道府県庁、市区役所、町村役場、国家公務員、税理士、銀行、信用金庫など。公共部門に入る学生が他学科より多いようですが、政治経済学部の広範なカリキュラムを経験する中で、民間企業を志望する学生も多くみられる。

※…大学名の前に*がついている学部・学科は、2015年3月現在卒業生がいない学部・学科。

II. 学士課程教育の特徴

(2-1) 授与している学位の名称

各学科で授与している学位の名称を記入してもらった。「地域」を名称に含む学部を設置されている地域系学科では、学位の名称を「地域学」「地域科学」などに行っている傾向がある。

<図表3> 授与している学位の名称 一覧

大学名	学部・学科名	授与している学位の名称
北海道教育大学函館校	国際地域学科	地域学(地域協働専攻)、教育学(地域教育専攻)
弘前大学	農学生命科学部地域環境工学科	農学
秋田大学	教育文化学部地域文化学科	地域文化
宇都宮大学	地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科	コミュニティデザイン学
宇都宮大学	地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科	工学
福井大学	国際地域学部国際地域学科	国際地域
山梨大学	生命環境学部地域食物科学科	農学
静岡大学	地域創造学環	学術
岐阜大学	地域科学部	地域科学
和歌山大学	観光学部	観光学
鳥取大学	地域学部	地域学
鳥取大学	地域学部地域教育学科	地域学
鳥取大学	地域学部地域文化学科	地域学
鳥取大学	地域学部地域政策学科	地域学
島根大学	生物資源科学部地域環境科学科	生物資源科学
香川大学	経済学部地域社会システム学科	経済学
愛媛大学	社会共創学部産業マネジメント学科	社会共創学
愛媛大学	社会共創学部産業イノベーション学科	社会共創学
愛媛大学	社会共創学部環境デザイン学科	社会共創学
愛媛大学	社会共創学部地域資源マネジメント学科	社会共創学
高知大学	地域協働学部地域協働学科	地域協働学
大分大学	経済学部地域システム学科	経済学
宮崎大学	地域資源創成学部地域資源創成学科	地域資源創成学
高崎経済大学	地域政策学部地域政策学科	地域政策学
高崎経済大学	地域政策学部地域づくり学科	地域政策学
高崎経済大学	地域政策学部観光政策学科	地域政策学
滋賀県立大学	人間文化学部地域文化学科	地域文化学
北九州市立大学	地域創生学群	地域創生学
長崎県立大学	地域創造学部公共政策学科	公共政策学
長崎県立大学	地域創造学部実践経済学科	経済学
札幌大学	地域共創学群	経営学、経済学、法学、外国語学(英語)、外国語学(ロシア語)、文化学
北海学園大学	経済学部地域経済学科	経済学
札幌大谷大学	社会学部地域社会学科	社会学
常磐大学	コミュニティ振興学部地域政策学科	コミュニティ振興学
大正大学	地域創生学部地域創生学科	経済学
東海大学 札幌キャンパス	国際文化学部地域創造学科	教養学
東京農業大学	生物産業学部地域産業経営学科	経営学
東洋大学	国際地域学部国際観光学科	国際観光学
東洋大学	国際地域学部国際地域学科	国際地域学
明治大学	政治経済学部地域行政学科	地域行政学
白梅学園大学	子ども学部家族・地域支援学科	子ども学
愛知大学	地域政策学部	地域政策学
愛知東邦大学	経営学部地域ビジネス学科	経営学
龍谷大学	社会学部コミュニティマネジメント学科	社会学
大阪経済大学	経済学部地域政策学科	経済学
追手門学院大学	地域創造学部地域創造学科	地域創造学
沖縄国際大学	経済学部地域環境政策学科	地域環境政策学

(2-2) 重視している学問分野

地域系学科でめざす人材の育成のため、科目編成においてどのような学問分野を重視しているか、5つまで選択してもらった。

回答が多かったのは「社会学」の33件(69%)で、「商学・経済学」が29件(60%)、「法学・政治学」が23件(48%)と続いた。地域系学科では、社会科学系の学問を中心とした教育が行われているようだ。一方で、環境科学などの「理学」、土木工学・建築学の「工学」、農業経済学を中心とした「農学」なども見られる。卒業後の進路として教員を考える学科が多い影響か、「教育」を選択する回答も9件あった。なお、「その他」としては「地理学」を挙げる回答が8件あった。

<図表4> 科目編成において各学科が重視する学問分野一覧(5つまで選択、n=48)

分野名		重視(5つまで)
人文科学	文学	8%
	史学	19%
	哲学	10%
	その他	33%
社会科学	法学・政治学	48%
	商学・経済学	60%
	社会学	69%
	その他	29%
理学		17%
工学		21%
農学		19%
保健		13%
家政		2%
教育		19%
芸術		10%
その他		19%

<図表5> 「その他」の回答で複数見られたもの

名称	件数
地理学	8
経営学	4
スポーツ	3
観光学	3
文化人類学	3
社会福祉	3
言語学	2
語学	2
地域学	2

※「人文科学系ーその他」「社会科学系ーその他」「その他」への回答を合わせて集計。

< 図表 6 > 科目編成において各学科が重視する学問分野一覧

大学名	学部・学科名	人文科学				社会科学				理学	工学	農学	保健	家政	教育	芸術	その他
		文学	史学	哲学	その他	法・政治	商・経済	社会学	その他								
北海道教育大学函館校	国際地域学科	○				○		○		○					○		
弘前大学	農学生命科学部地域環境工学科										○						
秋田大学	教育文化学部地域文化学科		○			○		○									
宇都宮大学	地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科					○	○	○		○							
宇都宮大学	地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科							○		○	○						
福井大学	国際地域学部国際地域学科					○	○	○		○			○				
山梨大学	生命環境学部地域食物科学科										○						
静岡大学	地域創造学環							○	○	○						○	○
岐阜大学	地域科学部	○		○		○			○	○							
和歌山大学	観光学部				○			○	○								○
鳥取大学	地域学部		○					○	○						○	○	
鳥取大学	地域学部地域教育学科							○	○						○	○	
鳥取大学	地域学部地域文化学科	○	○		○				○							○	
鳥取大学	地域学部地域政策学科				○	○	○	○	○								
鳥根大学	生物資源科学部地域環境科学科				○	○				○	○	○					
香川大学	経済学部地域社会システム学科					○	○	○	○								
愛媛大学	社会共創学部産業マネジメント学科					○	○	○									
愛媛大学	社会共創学部産業イノベーション学科										○	○					
愛媛大学	社会共創学部環境デザイン学科									○	○						
愛媛大学	社会共創学部地域資源マネジメント学科		○		○							○	○				
高知大学	地域協働学部地域協働学科							○	○	○		○			○	○	○
大分大学	経済学部地域システム学科				○	○	○	○									
宮崎大学	地域資源創成学部地域資源創成学科					○	○	○			○	○					
高崎経済大学	地域政策学部地域政策学科		○	○		○		○									
高崎経済大学	地域政策学部地域づくり学科		○	○		○		○									○
高崎経済大学	地域政策学部観光政策学科				○	○	○	○	○								
滋賀県立大学	人間文化学部地域文化学科		○		○			○		○						○	
北九州市立大学	地域創生学群							○	○				○		○		○
長崎県立大学	地域創造学部公共政策学科					○	○	○	○								
長崎県立大学	地域創造学部実践経済学科					○	○	○									
札幌大学	地域共創学群				○	○	○								○		
北海学園大学	経済学部地域経済学科																
札幌大谷大学	社会学部地域社会学科				○			○	○	○							○
東北学院大学	教養学部地域構想学科							○	○	○			○		○		
常磐大学	コミュニティ振興学部地域政策学科		○			○	○	○	○								
大正大学	地域創生学部地域創生学科							○	○								
東海大学 札幌キャンパス	国際文化学部地域創造学科							○	○						○		○
東京農業大学	生物産業学部地域産業経営学科							○		○		○					
東洋大学	国際地域学部国際観光学科			○				○		○							
東洋大学	国際地域学部国際地域学科				○	○	○	○		○							
明治大学	政治経済学部地域行政学科					○	○	○									
白梅学園大学	子ども学部家族・地域支援学科							○	○				○	○	○		
愛知大学	地域政策学部					○	○			○			○				
愛知東邦大学	経営学部地域ビジネス学科							○									
龍谷大学	社会学部コミュニティマネジメント学科			○	○			○	○								○
大阪経済大学	経済学部地域政策学科		○		○	○	○	○									
追手門学院大学	地域創造学部地域創造学科	○						○	○								
沖繩国際大学	経済学部地域環境政策学科					○				○							

(2-3) 力を入れている教育の取り組み

力を入れている教育の取り組みを5つまで記入してもらった。

自由記述を分析すると、幅広い分野の学修を促していることが、各大学に共通した特徴である。学部・学科の基礎科目や専門科目に幅広い分野の科目を設置するほか、コース制をとりつつも他のコースの科目の履修を奨励したり、他学部の授業の履修を可能にしたりするなど、各学科でさまざまな工夫をしている。

低年次では、地域の姿を知ることを目的とした科目を置く大学が多い。例えば「地域研究総合講座：地域の現場で活躍されている多くの方々に講義いただき、現場を身近に感じさせる」（明治大学政治経済学部地域行政学科）といった講義科目や、「地域住民との交流」「地域への理解」を狙った実習科目で取り組まれている。地域をフィールドとした実習（以下、実習）の事前学修として位置付けている場合も多い。

実習の事前学修としては、フィールドワークや社会調査に関する科目も重視されている。「第一次産業に従事する人たちが多く現地での活動に取り掛かる準備として、また活動を振り返る分析力の向上のために、フィールドワークに関する講義科目や演習科目を充実させている」（大分大学経済学部地域システム学科）といった例がある。

2・3年次には、ほとんどの学科が実習科目に取り組む。そして4年次に卒業論文・卒業研究に取り組むのが、地域系学科の学びの特徴のようだ。

さらに、地域との窓口となる部局の設置、例えば「地域構想研究所：学生の地域実習を支援するほか、各地の自治体に対して連携自治体ネットワークへの参加を促します。また地域企業や団体組織の対応窓口として機能し、卒業後の進路の開拓も行います」（大正大学地域創生学部地域創生学科）や、「大学として『山梨ブランドの食と美しい里作りに向けた実践的人材の育成』に取り組んでいます」（山梨大学生命環境学部地域食物科学科）といった、文部科学省「地（知）の拠点整備事業（COC事業）」「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」への採択等、全学としての取り組みも、地域系学科の学びを充実させるためには重要なようだ。

<図表7> 力を入れている教育の取り組み（抜粋）

大学名	学部・学科名	力を入れている教育の取り組み(5つまで)
秋田大学	教育文化学部地域文化学科	グローバルとローカルの双方向的視点からの教育
		特定領域科目群による専門教育
		実体験重視の教育
		国際的なコミュニケーション能力
宇都宮大学	地域デザイン科学部 コミュニティデザイン学科	地域デザイン訪問
		地域プロジェクト演習
		地域コミュニケーション演習
		地域の姿と課題 I
		地域社会総論
山梨大学	生命環境学部地域食物科学科	ワイン科学特別コース
		生命環境基礎ゼミ
		「山梨ブランドの食と美しい里づくりに向けた実践的人材の育成」(文部科学省「地(知)の拠点整備事業」)
静岡大学	地域創造学環	テーマ先行型の学び
		フィールドワークを学びの核に
		学びのコミュニティーの形成

大学名	学部・学科名	力を入れている教育の取り組み(5つまで)
岐阜大学	地域科学部	4年一貫の少人数教育 社会活動演習と地域学実習 教養教育と専門教育の連携 地域研究入門 専門基礎科目とコース別必修・選択科目
島根大学	生物資源科学部地域環境科学科	地域課題の抽出と解決法の提案 エンジニアリング・デザインの強化 課題の分析力の強化 文章力の強化 ディベートやファシリテーション
香川大学	経済学部地域社会システム学科	地域活性化プロジェクト 学生チャレンジプロジェクト 海外研修
高知大学	地域協働学部地域協働学科	高知県内各地における地域協働型実習授業の体系的な配置 グループワーク型少人数授業 学年研究論文の作成 学年ごとの進級評価 成果報告会の開催
高崎経済大学	地域政策学部地域政策学科	初年次ゼミ 地域政策学入門 演習・卒業論文
北九州市立大学	地域創生学群	実習・演習での地域における実践活動 地域創生学群チャレンジプログラム 高大連携と入試 各種研修、ルーブリック、ポートフォリオ 多様性の中で切磋琢磨する場づくり
長崎県立大学	地域創造学部公共政策学科	公共機関インターンシップ 公共政策実習 新聞で学ぶ経済Ⅰ～Ⅲ 日経リレー講座 行政の実務と実践 社会調査演習
札幌大学	地域共創学群	専攻制 レイターマッチング SUICC(札幌大学インターコミュニケーションセンター) 基盤教育
東海大学 札幌キャンパス	国際文化学部地域創造学科	スポーツの力で地域を活性化する人材の育成 地域づくりに貢献できる人材の育成 多様化する現代社会の変化に対応できる人材の育成 よりよい子どもの育成に貢献できる人材の育成
東洋大学	国際地域学部国際地域学科	SFS(Student-led Field Study) 資格実務科目 グローバル人材育成に向けた特別長期インターンシップ制度 ゼミ研修(フィールドスタディ) 海外国際地域学研修
白梅学園大学	子ども学部家族・地域支援学科	社会福祉を学ぶ～社会福祉の制度や仕組みを理解する～(相談援助実習) 対人援助の知識・技術を学ぶ～より幅広く、高度な援助の力を身につける～(介護実習) 地域支援の方法を学ぶ～地域の課題を知り、地域づくりを考える～(コミュニティカフェさつき実習・小平西地区ネットワーク実習/地域交流) 福祉と教育の両面からの支援を学ぶ～子どもの問題を幅広い視点でとらえる～(小平市内小学校との連携)
愛知大学	地域政策学部	アクティブラーニング コース入門科目(公共政策入門、地域産業入門、まちづくり入門、地域文化入門、健康・スポーツ入門) 顔の見える教育研究環境(全年次に、少人数クラスの演習科目(必修科目)を配置。教員1人当たり学生10名台) ゼミナール(2年後半から4年後半まで5セメスターに設置) 必修の「卒業研究」
沖縄国際大学	経済学部地域環境政策学科	フィールドワーク 海外留学

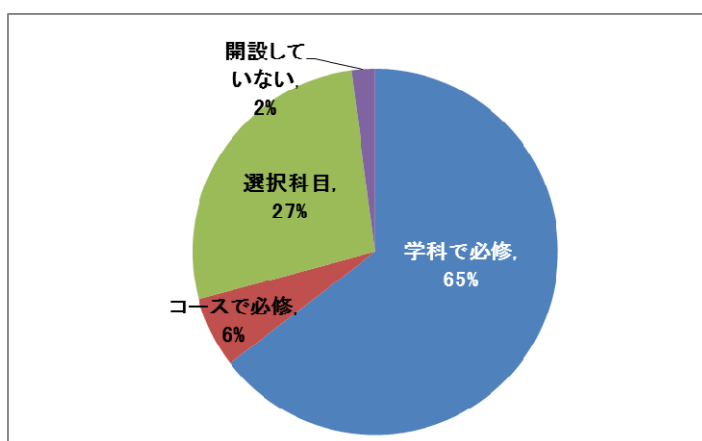
Ⅲ. 地域をフィールドとした実習

(3-1) 実習が必修か

地域をフィールドとした実習については、科目の開設状況や単位数、実習科目の狙い、具体的内容などを詳しく聞いた。

実習科目の開設状況としては、回答のあった48件中、学科で必修は31件、コースで必修は3件だった。回答のあった学科のうち7割程度が必修科目で実習科目をおいており、その重要性がうかがえる。「選択科目」も13件あり、必修にしていなくてもほとんどの学科が実習科目を開講している。

<図表8> 地域をフィールドとした実習が必修か (n=48)



(3-2) 実習科目の単位数・地域で活動する時間の割合

実習を「学科で必修」「コースで必修」としている34学科に、年次ごとの単位数や地域での活動の割合を聞いた。実習を開講する年次としては、1年次26件、2年次30件、3年次25件、4年次8件だった。学年別の配当単位数を回答の多い順にみると、1年次[2単位(11件)、1単位(8件)]、2年次[4単位(14件)、2単位(6件)]、3年次[4単位(12件)、6単位(4件)]と、年次が上がるほど単位数が多くなる傾向が読み取れる。実習科目の授業時間のうち、地域で活動する時間の割合は、4～5割程度との回答が多かった。

実習を始める時期を見ると、まずは地理学や社会学の探究方法を身につけてから2・3年次から地域に出る学科がある一方、1年次から配置し、「専門知識・技能を身につけてから自分のテーマに取り組むのではなく、自分のテーマに取り組みながら、それに必要な専門知識や技能を身につけていく」(静岡大学地域創造学環)という学科もある。

1～4年次まで実習を「必修」とした回答は7件、1～3年次まで実習を「必修」とした回答は14件あった。

<図表9> 「学科で必修」「コースで必修」の場合の年次ごとの単位数、地域で活動する割合

大学名	学部・学科名	1年次		2年次		3年次		4年次		単位数計
		単位数	活動の割合	単位数	活動の割合	単位数	活動の割合	単位数	活動の割合	
北海道教育大学函館校	国際地域学科			1	5割	1	5割			2
弘前大学	農学生命科学部地域環境工学科	2	1割	2	1割	6	4割			10
秋田大学	教育文化学部地域文化学科	2	1割			2	1割			4
宇都宮大学	地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科	2	2割	2	3割	4	4割			8
宇都宮大学	地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科	2	4割	3	8割	4	9割			9
福井大学	国際地域学部国際地域学科	4	3割	4	5割	4	5割			12
山梨大学	生命環境学部地域食物科学科	3	5割	2	5割	8	8割			13
静岡大学	地域創造学環	4	2.5割	8	5割	8	5割	4	2.5割	24
岐阜大学	地域科学部	2	7割			2	5割			4
鳥取大学	地域学部			2	5割					2
鳥取大学	地域学部地域教育学科			4	3割					4
鳥取大学	地域学部地域文化学科			6	4割					6
鳥取大学	地域学部地域政策学科			6	2~6割					6
島根大学	生物資源科学部地域環境科学科	1	10割					8	6割	9
愛媛大学	社会共創学部産業マネジメント学科	1	7割	4	7割	4	7割			9
愛媛大学	社会共創学部産業イノベーション学科	1	7割	4	7割	4	7割			9
愛媛大学	社会共創学部環境デザイン学科	1	7割	4	7割	4	7割			9
愛媛大学	社会共創学部地域資源マネジメント学科	1	7割	4	7割	4	7割			9
高知大学	地域協働学部地域協働学科	6	5割	8	5割	8	5割			22
* 大分大学	経済学部地域システム学科	2	3割	4	3割	4	7割	4	7割	14
宮崎大学	地域資源創成学部地域資源創成学科	2	5割	3	4割	4	3割			9
滋賀県立大学	人間文化学部地域文化学科	1	2割							1
北九州市立大学	地域創生学群	6	10割	6	10割	6	10割			18
長崎県立大学	地域創造学部公共政策学科			4	1割					4
長崎県立大学	地域創造学部実践経済学科			4	1割	4	1割			8
札幌大谷大学	社会学部地域社会学科	1	9割	2	3割	2	7割			5
東北学院大学	教養学部地域構想学科	2	3割	4	3割	6	3割	4	3割	16
大正大学	地域創生学部地域創生学科	7	2.5割	7	2.5割	7	2.5割			21
* 白梅学園大学	子ども学部家族・地域支援学科	8	2割	4	1割	6	1割	8	2割	26
東京農業大学	生物産業学部地域産業経営学科	1	10割	1	10割	1	10割	1	10割	4
龍谷大学	社会学部コミュニティマネジメント学科	2	5割	4	9割	4	9割	4	9割	14
* 大阪経済大学	経済学部地域政策学科	2	8割	2	5割					4
追手門学院大学	地域創造学部地域創造学科	2	2割	4	2割	4	2割	4	2割	14
沖縄国際大学	経済学部地域環境政策学科			4	5割					4

※…実習を「コースで必修」としている学部・学科に*を付した(それ以外は「学科で必修」)。

(3-3) 年次ごとの実習の狙い

実習科目の狙いは何か、地域との関わりについて7つの選択肢から、各年次3つまで選んでもらった<図表10>。実習の狙いをみると、地域理解から課題の発見、解決策の立案、実践というように、年次を追うごとに課題解決のプロセスを経験していくよう実習科目が置かれていることがわかる。なお、4年次は、実習を置いていると回答した学科が少ないが、「他地域との比較、解決策の他地域への応用」を狙いに挙げた回答が10件あり、これは他の年次と比べても最も多い。

「その他」(2つまで)の記述では、専門にかかわらず必要な能力と、地域に関わるにあたって必要な能力に分類できる。前者の例としては、「コミュニケーション能力」「文理融合・知識・調査・分析力」(静岡大学地域創造学環)、後者の例としては「解決策の評価・改善」(高知大学地域協働学部地域協働学科)などが挙げられた。

<図表10> 年次ごとの実習の狙い

実習の狙い	開講年次			
	1年次(n=27)	2年次(n=30)	3年次(n=26)	4年次(n=15)
地域住民との交流	67%	43%	38%	47%
地域への理解	100%	57%	31%	20%
地域課題の発見	78%	97%	50%	20%
地域課題の解決策の立案	15%	60%	92%	100%
立案した解決策の実践	4%	20%	69%	60%
他地域との比較、解決策の他地域への応用	7%	3%	27%	67%
その他	7%	10%	23%	13%

(3-4) 実習先の主な地域

また、科目の必修・選択を問わず、実習先の主な地域名について、「大学の近隣都道府県」「その他の国内」「海外」の3つに分けて聞いたところ、それぞれ45件、14件、20件あった。実習の行いやすさや、大学の地域貢献の観点から、大学近隣で実習を行う学科がほとんどだが、「その他の国内」「海外」でも3~4割の学科が実習を行っていることがわかった。

海外の実習地の例としては、「アメリカ合衆国カリフォルニア州」(東海大学国際文化学部地域創造学科)や、「イギリス、オーストラリア、カナダ、フィリピン、タイ、スペインなど」(和歌山大学観光学部)などの回答があった。また、上述した実習の狙いとして「他地域との比較、解決策の他地域への応用」を選んだ大学では、「インドネシア、タイ、ネパール、台湾、モザンビーク」(愛媛大学社会共創学部)、「ベトナム、インドネシア、マレーシアなど」(鳥取大学地域学部地域政策学科)といった回答があった。

(3-5) 実習の効果を高める工夫

実習を効果的に行うため、どのような工夫を行っているか、実習科目を1つ以上開講している学科に自由記述で回答してもらった（有効回答数47件）。

実習前の事前学習については23件（49%）の記述があった。講義や資料・文献収集を通じて実習地や実習内容について知ることや、調査技法の習得、地域に出るにあたってのマナー研修などの内容が挙げられた。

実習後の成果報告会は、39件（83%）あった。学内で他グループの前で成果を報告したり、実習先の関係者に向けて報告を行ったりと、実施の方法はさまざま。他にも、報告書の作成も14件（30%）あり、「調査で得た学びを効果的に振り返ることができるように、成果報告会の実施と実習報告書の作成を義務づけている」（札幌大谷大学社会学部地域社会学科）というように、実習で学んだことを振り返り、理解することを重視していることがうかがえる。

他にも、実習中・実習前後の教員によるチームティーチング、教員と実習先の関係者の話し合いの場を設けて大学と地域の関係作りに努めるといった回答や、他の講義科目で学んだ内容を実習で生かせるようカリキュラムの構成を工夫しているという回答もあった。

<図表 11> 実習の効果を高める工夫

大学名	学部・学科名	工夫
札幌大谷大学	社会学部 地域社会学科	・調査対象の抱える課題を多角的に捉えられるよう、関連資料やホームページによる事前学習、野外観察、及び関係者に対するインタビュー調査を組み合わせ実施している。 ・調査で得た学びを効果的に振り返ることができるように、成果報告会の実施と実習報告書の作成を義務づけている。 ・学生の発表・報告書の質を高めるため、発表練習や個別面談等の場で担当教員が各学生に個別指導している。
鳥取大学	地域学部	事前学習（課題に関わる資料収集、先行研究等の文献調査、調査・分析方法の習得）、テーマの設定、チームの組織、調査フィールドにおける地域（組織、団体、個人）との連携、グループでの協同的な調査・研究の実施、調査によっては調査経験のある先輩学生による調査サポート、現地での成果報告会の実施、報告書の作成。
明治大学	政治経済学部 地域行政学科	実習前には、事前講習として、マナー講座等を実施。事後には、教員、学生、実習先としてお世話になった機関の方々の参加による成果報告会、懇談会が用意されている。
愛知東邦大学	経営学部 地域ビジネス学科	・成果発表会を実施している。その日程も連携先関係者の方にプレゼンを聞いていただきたいので、出席しやすい土曜日の午前中に設定するなど配慮している。
福井大学	国際地域学部 国際地域学科	課題探求プロジェクトは学生の知識レベルや経験値に応じて到達目標を段階的に高め、学外との連携の在り方も高次のものへと進めていく授業であり、3年次（一部4年次前期に選択）に行われる課題探求プロジェクトⅢにおいて、学生が連携する企業や自治体等の人々と共に特定の課題解決に本格的に取り組むものである。これに必要な座学を中心とした基礎的な知識を教授する授業の多くは2年次までに履修し、専門的基礎知識を踏まえて本格的に課題に取り組むことになる。また、課題への取り組みと並行して、具体的な地域課題や地域に関する知識と関連した現代社会科目や総合自然科目を履修し、取り組みの効果を高める。さらに、課題探求プロジェクトでの課題への取り組みを踏まえて、学生は各自が取り組んだ課題から自分の問題意識を深め、関連する専門知識について教員の指導を受けつつ卒業研究を完成させる。
静岡大学	地域創造学環	①1年次科目での緊密な科目間連携（例：地域創造概論、地域づくりの課題Ⅰ・Ⅱ、社会調査入門、プレゼンテーション入門、ファシリテーション入門、社会科学情報処理、地域創造演習Ⅰ、フィールドワークⅠ）。 ②演習（地域創造演習）とフィールドワークとを一体化し、4年間継続して実施できるカリキュラム編成。 ③学生間・学生-教員間、教員-教員間の「協働の学び」の時間帯として週間時間割上に「コミュニティー・アワー」を設定。 ④フィールドごと、テーマごとの教員チームの編成と定期的なセミナー/ワークショップの開催。
大分大学	経済学部 地域システム学科	座学による事前学習のための講義科目の開設、事前オリエンテーションの実施、運営のための教員による委員会の設置、活動成果の評価と修了証の付与、協力要請のための学部と地域自治体等との緊密な連携。
宮崎大学	地域資源創成学部 地域資源創成学科	2年次後期、3年次後期、4年次後期にそれぞれ「マネジメント実践成果発表会」を実施し、2年次後期の実習、3年次前後期の実習及び4年次の卒業研究での成果を学生が発表する予定です。発表会には、指導教員、関係教員だけでなく、外部評価委員（学生派遣先関係者等）と学部学生（下年次生）も参加予定。県内の産学官の各種団体と「実践教育連絡協議会」を設置し、地域ニーズや地域戦略に基づいた実習の在り方や効果的な実習カリキュラムの在り方を協議し、実習先企業等の意見を反映した実習を構築します。

(3-6) 特に力を入れている実習科目

最後に、力を入れている実習科目について、科目の概要（開講年次、単位数、活動地域、実習内容）を聞いた。〈図表 12〉はその一例である。いずれも、〈図表 10〉に挙げた地域の問題解決に向けたプロセスを経験したり、地域に出て専攻する学問（社会学、政治学など）の調査・分析スキルを身につけたりすることを目的とした実習を行っている。表中の宮崎大学のように、地元企業や自治体での実践を行う場として、インターンシップについて記述した回答も 8 件あった。

〈図表 12〉 実習科目の例（抜粋）

宇都宮大学 地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科	
科目名	地域デザイン訪問(1年次、2単位)
実習先	栃木県内市町
内容	学科混成グループに分かれ、円滑な対人関係づくりの上で地域と連携するのに必要なコミュニケーションスキルを身に付けるための知識と手法を学び、グループワーク等を通して学修した手法を実践し、手法の体験的な修得を行う。具体的には、地域の特性を数量的に伝える手法、論理的文章として伝える手法、地域の地理的特性を読み解く手法などを体験し、それぞれが独自の問いを発見しそれを実現できるようにし、地域でのコミュニケーションに必要な基礎力を養う。
龍谷大学 社会学部コミュニティマネジメント学科	
科目名	入門実習(1年次、2単位)
実習先	滋賀県下の各市町
内容	コミュニティマネジメント学科の学びの核であり、最も重要な特徴でもあるのが2回生以降の「コミュニティマネジメント実習」(CM実習)です。「入門実習」では、このCM実習に参画していくために必須の態度や技法を体験的に学びます。学内外での実習を行うために必要な基礎的なマナーやコミュニケーション能力の涵養、特に「ほう(報告)、れん(連絡)、そう(相談)」について経験します。また、実習関係書類作成方法などを学び、実習に関する事前計画や事後報告を行います。1泊2日の学外実習(地域社会現場での調査など)を通して、協同作業の力を養います。
鳥取大学 地域学部地域政策学科	
科目名	地域調査実習(2年次、2単位)
実習先	鳥取県琴浦町(2014~16年度)
内容	2015年度は、約50名の学生が各自の希望に基づいてA「政策課題と総合戦略」、B「地域資源活用・地域経済」、C「地域コミュニティ」、D「生活行動」、E「行政サービス」の5つのグループに分かれて琴浦町での調査実習に取り組んだ。グループにより研究テーマの設定方法や、個人研究かグループ研究かなどの違いはあるが、オリエンテーションや地域理解のレクチャーなどを全体で行った後、おおよそ5月からグループに分かれて活動をスタートする。12月にはある程度のレベルまで研究成果を取りまとめたものを、全体で報告する学内報告会を実施する。さらにその内容をブラッシュアップし、2月に現地報告会を実施するとともに、2月末を目途に報告書の本稿を完成させ、全体で約250ページの報告書として製本化する。
秋田大学 教育文化学部地域文化学科	
科目名	地域連携プロジェクトゼミ(3年次、2単位)
実習先	秋田県
内容	授業の目的は実習生が実習受入機関で社員や職員、地域住民等と協働する実務体験を通して、課題や資源を(再)発見し、解決策や活用方法を見いだすことにより実践力を養成することにある。到達目標は地域に関する認識を深め、地域社会や職場で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力や態度を養うことにある。授業内容は実習受入機関に実際に出向き、その機関の職員、社員、地域住民等と共に活動し、掲げられた課題を解決していくものである。実習の期間については実習受入機関毎に異なる。課題についても、それぞれの実習機関によって異なる。
北海道教育大学函館校 国際地域学科	
科目名	地域プロジェクト I (2・3年次、1単位)
実習先	主に北海道南部地域(函館市、北斗市、知内町、江差町など)および青森県
内容	地域に根差した約50の多様なテーマの中から学生は1つを選び、平均5名程度ずつのグループを組んで実施します。地域現場の課題についての的確に理解し解決を図ることにより、地域の活性化・再生に貢献し得る実践的能力を修得することを目指します。授業では、はじめに地域が抱える具体的な課題やその背後にある事情や問題について、フィールドワークや文献講読等を通じて理解を深めます。次に、グループ内および地域連携先との協議や検討を重ねた上で、地域課題を解決するためのプロジェクトを構想し、地域と連携しながら遂行します。最後に成果報告会を開催し、地域の方々からの批判を仰ぎ、成果と反省を総括します。プロジェクト例としては、「外国人観光客を視野に入れた道南観光情報の充実」、「外国人の目線で函館の国際化を考えるプロジェクト」、「道南地域企業就職応援プロジェクト」、「小学校を拠点とした地域づくりの試み」、「函館市内のクラスにより生じる諸問題の現状把握と解決策」などがあります。

常磐大学	コミュニティ振興学部地域政策学科
科目名	政策過程分析(3年次、2単位)
実習先	茨城県
内容	主に、茨城県内の自治体が現在取り組んでいる政策課題を対象に、その政策過程全体を実証的に分析するためのスキルを学ぶ。政策過程分析に関する考え方や手順を学ぶ過程において、論理的な思考力を育むとともに、グループワークを通して課題を発見し、解決するための手法を習得する。
福井大学	国際地域学部国際地域学科
科目名	課題探求プロジェクトⅢA・ⅢB(3年次、各2単位)
実習先	福井県 他
内容	【ⅢA】地域創生アプローチを選択する学生は、原則として「ⅢA」、「ⅢB」と通年でプロジェクトに取り組む。この授業では、現場の課題への具体的な取り組みにより、学生が自己の能力発揮を通じて成長を遂げるとともに、チームでの取り組みの中で自己の学びの展開に重点を置く。学生は、テーマ毎にチームを組んで、それぞれ連携する企業や自治体、地域の諸団体等の人々と共に特定の課題に本格的に取り組む、課題解決の一助となる支援や提案を行うことを目標に活動する。「ⅢA」では企業や自治体が提供した課題、または学生チームと企業・自治体等が協議して決定した課題について、必要な法規や情報、課題に関連する学問分野の内容について文献学習や教員、ゲストスピーカーのレクチャーによって学び、予備的な調査を行ったり、後半の調査・分析・発案の内容やスケジュールを企画したりする。【ⅢB】「ⅢA」での取り組みを踏まえて各グループが調査や企画の実施、および発案を行う。調査や企画を実施した後に、教員のサポートの下に会社スタッフや自治体職員、地域住民等と共にデータの分析、改善プラン等の検討を行い、最終的に連携相手先の会社や自治体、関係団体、地域住民等に報告するとともに、報告書を作成する。
愛媛大学	社会共創学部産業マネジメント学科
科目名	プロジェクト実践演習(3年次、2単位)
実習先	愛媛県内、愛媛県外
内容	○2年次のプロジェクト基礎演習で企画した提案をステークホルダーと協働して、ものづくり、ことづくり、しくみづくりの実現可能性について詳細に検討を行う。チームは、2年次のプロジェクト基礎演習と同じ編成とする。自分の専門分野の知識をフィールドに応用したり、複数の学問分野を横断的に展開したりして、実践知に高めることで、テーマに応じてより広い分野と地域の人々を巻き込んでいながら、社会に「ものづくり」「ことづくり」「しくみづくり」を働きかける企画案のプロセスをデザインする。ステークホルダー等に対して、中間プレゼンテーション会を開催し、その際に出た意見を反映することを通して、提案内容をチームで改善する。○具体的には、地域のステークホルダーとの協議によって地域からの課題と企画のマッチングを行った上で、地元企業や地域産業の課題解決に貢献できるプロジェクト(新製品・サービス案や業務改善案の提案、市場調査や企業・産業分析など)を実施する。○企業・団体への訪問・調査によって課題を理解した上で、資料分析・各種調査・結果分析などを行い、その成果について地域のステークホルダーに対してプレゼンテーション(中間報告)を行う。○プロジェクトの遂行を通じて課題の本質を明らかにするための調査・分析力と、課題の背景にある理論やメカニズムについて多面的に考察するための思考・判断力の向上をめざす。
追手門学院大学	地域創造学部地域創造学科
科目名	地域創造実践演習(入門、基礎1・2、展開1・2、発展、総括)(1~4年次、各2単位)
実習先	1年次:大学の所在する大阪府茨木市を中心に北摂地域、2年次以上:ゼミ担当者によって異なる
内容	【入門】:地域の中に入り地域の課題を解決する実践活動を実施するための事前の準備として、大学が所在する大阪府茨木市の課題を発見するための事前学習やフィールドワークに取り組みさせることによって、基礎的な汎用的技能や、自己管理能力、チームワーク、リーダーシップなどの基礎的な態度・志向性を身につけさせる導入科目である。 【基礎1・2】:地域の中に入り地域の課題を解決する実践活動を実施する。課題解決のためには、地域の情報を適切に収集し、それを精確に分析し、解決すべき課題を発見するプロセスと、様々な制約のもとで問題解決までのプロセスを構想し、これらを他者に的確に表現したうえで、実際に実行に移すプロセスが必要である。この科目では、担当教員の指導にもつばら依拠しながら、解決が比較的容易な課題に取り組むことにより、基礎的な問題解決能力を身につけさせる。 【展開1・2】【発展・総括】:受講生が、担当教員の助言及び支援を受けながら、解決がやや困難な課題を自分たちで選定し、その解決に主体的かつ協動的に取り組むことにより、問題解決能力をブラッシュアップし、社会で必要とされる問題解決のための能力を確実に修得する。
香川大学	経済学部地域社会システム学科
科目名	海外研修(1年次、2単位)
実習先	ドイツ・ヴィースバーデン、フランス・パリ、アメリカ・カリフォルニア、中国・上海、台湾・新北(もしくは台北)、韓国・ソウル
内容	半年程度前から定期的に事前学修を行い、当該地域の言語の復習、当該地域の社会経済文化の学修、グループづくり、現地での調査内容の設定などを行う。研修先では、午前中、協定校の提供する語学研修プログラムに参加し、午後はグループで当該地域の調査活動を行う。帰国後は、グループ又は個人でレポートを作成し、公開の合同報告会においてプレゼンテーションを行う。
宮崎大学	地域資源創成学部地域資源創成学科
科目名	国内インターンシップ(2・3年次、2単位)
実習先	宮崎県自治体及び企業等
内容	学内外で開講する講義や地域実践実習に加え、2~3年次の長期休暇を利用して、1カ月程度の国内インターンシップ(県内を中心に)に行くことで、講義や地域実践実習で得た知識や実践能力を、さらに個人で高めることを目的とします。また、国内インターンシップでは、社会人と接する環境で実社会を経験し、様々な課題や問題を体感することで、社会人として求められる能力を的確に理解し、自ら行動できる実践力を身に付けるとともに、自身のキャリアについて考える機会を得ることもできます。

IV. 参考資料

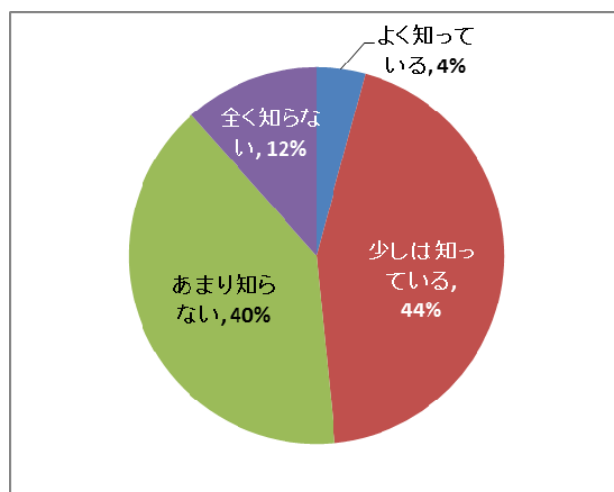
(4) 地域系学部・学科に対する高校教員の声

ガイドライン7・8月号の企画に関連して、河合塾では高校教員を対象に、地域系学部・学科に関するアンケートを実施した。その結果を紹介する。

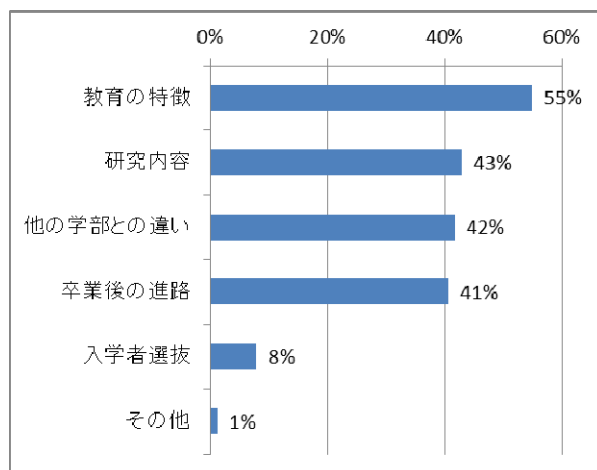
まず、地域系学部・学科については、〈図表 13〉のように、「よく知っている」高校教員は少数であった。地域系学部・学科についてわかりにくい点を聞くと、〈図表 14〉のように、「教育の特徴」が半数を超える。

さらに、地域系学部・学科に対するイメージを自由記述してもらった〈図表 15〉。人材育成や教育内容に大きな期待を寄せている先生がいる一方で、設置の趣旨などがあまり伝わっていない先生も少なくない。

〈図表 13〉 地域系学部・学科をどの程度知っているか (n=95)



〈図表 14〉 地域系学部・学科のどのような点がわかりにくいか (複数回答、n=91)



<図表 15> 高校教員のコメント

教育内容を知っているか	地域系学部・学科についてのイメージ(括弧内は高校所在地)
よく知っている	文科省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の目的「大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取り組みを支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積」を担う大学。本校では、それぞれ異なる地域課題を抱えた各大学に本校卒業生が進学し、そこで培った力を将来地元振興に貢献してほしいと考え、思いのある生徒には様々なタイプの大学を積極的に紹介している。(中部) グローバルな感じのしない内向きな印象を受ける。実際に希望する生徒の多くが、地元の市役所に入れるかもしれないからといった実利追求型が多い。(中部)
少しは知っている	<p>一時の国際系、総合系、福祉系の流行のように、数年経てみればまた学部名が変わっているのではないかという気がする。これまでも地方大学は地域に根ざした学問をしてきたはずである。(東北)</p> <p>地域という視点を持つことは重要だが、まだ若い時期にそれだけを追い求めることが良いのだろうか。18歳人口に頼らない生涯教育の一環として考えるべきではないのか?と思う。(関東)</p> <p>よいイメージをもっているが…保護者からすると、どんな学びをし、就職先がどうなるのかが心配だろうと懸念される。(中部)</p> <p>郷土の才を活用しようとの趣旨だとは思いますが、まず広い視野を獲得するために外の世界へ出る、という視点が欠けていないかという印象を持っています。(中部)</p> <p>地域に特化した独自の研究をしている大学・学部を知っているし、素晴らしいことだと思っている。後は、それに向けて優秀な生徒が入ってこれるような仕組み(施設、優秀な教授陣)が揃えば、さらなる発展が期待されると感じている。(近畿)</p> <p>「学」が学問領域の枠を越えて、地域に必要なもの、どのような貢献を地域に対して果たせるのかを極める…といったところでしょうか。(近畿)</p> <p>過疎地域の町おこし等の地域活性化に関わる内容について学が学部だと認識しています。特に地方の大学に多く設置されているイメージです。(中国)</p> <p>何をやるか、(文化、経済、そのほか総合的なのか)よくわからないイメージがある。卒業後、どのような職に就けるのか、開拓しているのか、わからない。(中国)</p> <p>フィールドワークなどの実習を目玉にしている地域系学部がありますが、手間のかかる指導を、現在の人員で行うことに無理はないのかという点について疑問を感じています。また、学部生にとってのフィールドワークは、どのような位置づけなのか。フィールドワークは応用的な学びだと思うのですが、学部生がフィールドワークを行う際に、基礎の学びは十分できてきているのだろうか、と思います。(四国)</p> <p>やっていることがよくわからないので、受験の倍率が下がるのでねらい目となりやすいと認識しています。(四国)</p> <p>内容まで調べれば、それなりに面白いのだが、地域とついていることで敬遠する受験生が多い。(四国)</p> <p>将来の地域のリーダーとなる人材を発掘・育成するところ。(九州)</p> <p>一時的なブームのような感じであり、真の学問には遠く、公務員や地域密着企業への就職を有利にする学部に近いのではないかと。将来の安定として公務員を希望する高校生は飛びつく傾向にあるが、少子高齢化など地域が抱える課題に対する行政での勤務になるのであれば、どの分野の知識が将来役に立つか今の段階では予想もできないと思う。高校生が未知の分野に飛び込み、諸問題を解決できる能力の育成のためにも、既存の学部での学問追究をすすめたい。(九州)</p>
あまり知らない	<p>実態が掴みづらい。学ぶ内容・目的が分からないと、生徒との面談で推すこともできず、また質問されても答えづらいので困る。(関東)</p> <p>文部科学省が文系学部などを中心に従来の学部学科を減らす方向にしようとしているのに対抗するために、新しい取り組みとして地域系学部・学科をもうけることで、定員を減らさない方向に持って行くために作ったというイメージです。(関東)</p> <p>首都圏の生徒にとってはあまり関係の無いようなイメージ。(関東)</p> <p>まず、地域といっても、そのローカルな場所を指す場合と、世界から見た地域(ヨーロッパや極東地域など)という意味で全然違うと思いますが、どちらを指しているのかがよく分かりません。また、特に学部再編などでつくられるので、名前を変えているだけ(中にいる先生は同じ)のような気もしてよく分かりません。国立大学の場合は以前の教養部みたいなもののような気がして、専門性よりも分野横断型のようなものかな、と思っています。(中部)</p> <p>教員養成系学部が改組された学部というイメージである。(近畿)</p> <p>それぞれの地域独自の産業を中心とした調査・研究を推進している学部というイメージがある。(近畿)</p> <p>地域創生の観点からすると、今後発展していくべきものだと思う。(中国)</p> <p>グローバルが叫ばれている時代に、その対極にあると思われる地域に焦点を当てているところが、これまた時代なのかなと思う。政治が地域創成に力を入れている結果でもあるのではないかと。(中国)</p>
全く知らない	<p>地域の産業や観光、歴史について総合的に研究し、地域を活性化するような企画もたてるような学部。(中部)</p> <p>地元の公務員就職を意識した総合政策学部みたいなイメージです。(中部)</p> <p>正直、全くイメージがわかないが、なんとなく社会科学系統の研究をするのかなという印象です。(近畿)</p>

©Kawaijuku 2016 Printed in Japan

無断転載複写禁止・譲渡禁止